

研究開発課題事後評価結果

| | |
|-----------|---|
| 事業名（領域名） | 次世代治療・診断実現のための創薬基盤技術開発事業（RNA 標的創薬技術開発） |
| 事業年度 | 令和3年度～令和7年度 |
| 公募研究開発課題名 | 標的 RNA の機能解析・構造解析基盤技術開発 |
| 研究開発課題名 | 機能解析に基づく RNA 標的創薬のための統合 DB と AI システムの構築 |
| 代表機関名・役職名 | 大阪大学・特任教授 |
| 研究開発代表者名 | 中谷 和彦 |

【評価結果】

良い／総合的に計画した成果が得られた

【評価コメント】

Long noncoding RNA や architectural RNA に関する公開データ、本課題で取得したデータ、及び標的 RNA と化合物の相互作用を解析した膨大なデータに基づき独自のデータベースを構築し、創薬標的予測 AI と化合物選別 AI を構築するという研究目標を産学が連携して達成し、創薬のプラットフォームとなるシステムを構築できたことが評価された。

一方、構築した AI システムの創薬における有用性の実証が十分ではなく、構築したシステムが国際的競争力を持つものであるか、現時点での評価が難しい。また、論文発表、知財確保は研究費に比して十分ではないように思われる。今後、本システムの管理・アップデート・利用の体制を整え、参画した各社に加え他の企業で実際に創薬研究に活用し、創薬開発に役立つものであることを実証するなどの展開が必要である。